

沼津市

明治史料館通信

1996. 7. 25 (季刊 年4回発行) Vol.12 No. 2 通巻第46号



大正2年(1913)9月 内浦村重寺でのマグロ大漁のようす
(内浦重寺 白山神社)

ぬまづ近代史点描 ③〇

内浦のマグロ漁

○内浦湾の鮭大漁

四時間にて二万余尾

田方郡内浦湾に面する内浦重寺外四字及西浦村木負外六字は何れも同湾の漁業を以て生活し居り四時魚見櫓に監視人を置きて魚族の来襲を見張り居るが去十日午前三時二里以上の沖合に真黒くなつて寄来るものあるより注目するに鮭の大群なりしかは驚喜して鐘を鳴らし二村の老幼総出にて漁獲に従事し約四時間にて二万余尾を漁獲して一時沿岸は鮭の山をなしたるが右は何れも十貫目以上あり臨時に生洲を造りて放棄し居れりされば其収益は頗る多額にて一戸当り数百円に及ぶべく六百年以来の大漁なりと称し漁民の喜悦一方ならざる中にも重寺の□□□□の如きは三月以来不幸続きにて生活に窮し四日以前祖先の位牌を質入して七十銭を借り一家八口を糊し居たるに此大漁を見たるより蘇生の重ひをなせり此大漁を聞きし修善寺長岡等の温泉浴客は何れも毎日見物に來り非常なる景気なりと

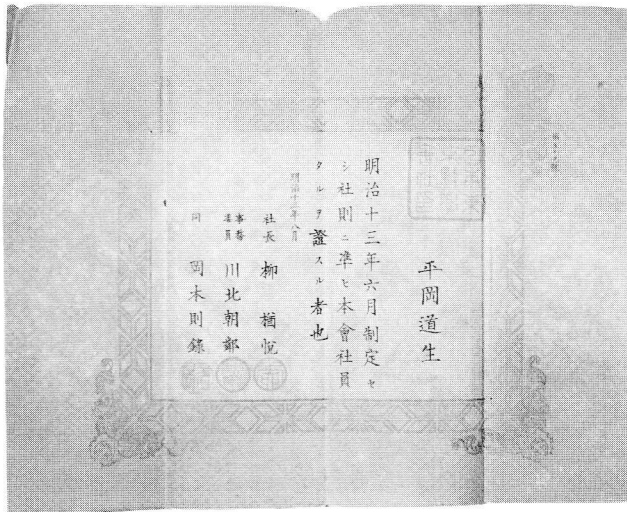
(『静岡新報』大正2・9・12)



大正2年(1913)9月 内浦村重寺でのマグロ大漁のようす
(内浦重寺 白山神社)

これは大正二年(一九一三)の内浦でのマグロ漁を報じる新聞記事である。掲げた写真はその時に重寺で撮影されたものであり、大漁ぶりがよくわかる。
駿河湾が深く食い込んだ内浦湾には、毎年きまってマグロが回遊してきた。近世以来、内浦の村々ではそれを待ち構え、湾を大きな

網で立ち切って魚を捕獲した。その漁法は「建切網漁」とか「たち漁」と呼ばれた。しかし、明治中期以降マグロの回遊が減少し、この写真が撮られた頃を最後に沿岸でのマグロ漁は見られなくなっていった。〈参考〉沼津市歴史民俗資料館「解説シリーズ8 まぐろ漁の話」(一九七八年)



平岡道生の東京数学会社社員証
(平岡ぎん氏寄贈)

シリーズ
沼津兵学校とその人材

東京数学会社の会員たち

43

明治十年(一八七七)九月、日本最初の数学の学会「東京数学会社」が結成された。創立当時の会員一四名のうち、十七名は沼津兵学校出身者であった。名前と沼津での前歴、当時の所属を記すと以下の通りである。

- 津での前歴、当時の所属を記すと以下の通りである。
- 矢田堀鴻 権少参事 正院
- 塚本明毅 一等教授 内務省
- 赤松則良 一等教授 海軍省
- 伴鉄太郎 一等教授 海軍省
- 神保長致 三等教授 陸軍省
- 山本淑儀 三等教授並 海軍省
- 榎本長裕 三等教授並 陸軍省
- 永峰秀樹 第二期資業生 海軍省
- 真野肇 第二期資業生 海軍省
- 荒川重平 第二期資業生 海軍省
- 中川将行 第二期資業生 海軍省
- 伊藤直温 第四期資業生 海軍省
- 岡敬孝 第四期資業生 新聞社
- 海津三雄 第六期資業生 陸軍省
- 宮川保全 第七期資業生 文部省
- 堀江当三 第八期資業生 陸軍省
- 古谷弥太郎 付属小生徒
- この他、沼津移住の旧幕臣としては中村六三郎が会員中にいた。
- また、その後の新入会員にも、市川芳徹(第四期資業生)・杉浦若次郎(第七期資業生)・平岡道生(第

八期資業生）・大森俊次（員外生）らが出た。

沼津兵学校は日本において最初に洋算教育を系統的に行った長崎海軍伝習所の人的系譜を引いていた。東京数学会社の中心メンバーには、柳橋悦・小野友五郎・沢太郎左衛門・荒井郁之助ら、やはり長崎海軍伝習所系が占めていた。

東京数学会社では、数学の必要性を社会に訴え、その普及をはかるために『東京数学会社雑誌』を毎月発行した。同誌は最初、和算をも含めた問題・解答を掲載していたが、やがて西洋数学が主流を占めるようになり、高度な論文も掲載されるようになった。

沼津兵学校出身の中川将行・荒川重平らはこの会の活動の中で、用語の訳語統一を推進するなど、数学界に功績を残した。

東京数学会社は明治十七年（一八八四）六月、東京数学物理学会に改組する。同会は大学関係者が幹部を独占したため、中川ら非大学派は、明治二十年（一八八七）数学協会を別に結成した。参考・小倉金之助『数学史研究』

江原素六とその周辺 <26>

俳人贄川他石の手紙

大正二年（一九一三）十月、江

原素六は藍綬褒章を受賞した。その際に祝いとして寄せられた二通の手紙がある（江原文書E-1-a-147）。以下がその文面である。

謹啓 昨 殊恩を荷ひ藍綬章の表彰を受けさせられ候事、大賀詞も無之候、折から病臥中不取敢書中御祝申上候

大正二年十月卅日

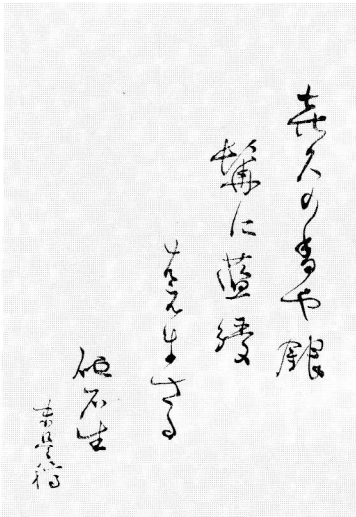
邦作

江原先生侍曹

喜久の香や銀髻に藍綬

はえまさる

他石生



贄川他石が江原素六に贈った祝いの句



贄川他石 (望月美奈男氏提供)

未量稿

名望家であった。

俳諧は田方郡中郷村八反畑（現三島市）の箕田寿平（孤山堂凌頂）に学び、後に師の庵号を嗣ぎ三世孤山堂を名乗った。師を助け『俳諧鳴鶴集』という俳諧雑誌を発行するなど、地方俳壇で指導者として活躍したほか、郷土の俳諧史の研究にも熱心で『六花庵三代』（一九三四年）を著したり、雑誌『本道楽』に各種史料紹介を発表するなど、沼津地域の近世文化の発掘にもつとめた。

贄川は江原が校長をしていた旧沼津中学校に学んだほか、地方政治家としては立憲政友会系であったため、江原を大先輩として仰いでいたらしい。

お知らせ欄

◎企画展「近世・近代 めまづの俳人たち」の開催について

今回の企画展は沼津における近世から近代の俳諧・俳句の歴史をテーマに取り上げました。特に地域の埋もれた無名の俳人たちを掘り起こすことに力点を置き、地方文化の豊さを検証します。

期間…7月1日(月)から9月29日(日)まで

会場…3階北側展示室

内容…近世の俳人(六花庵官鼠・

種玉庵連山ら)、近代の俳人(矢田斗大・原田浜人・鈴木不蛭ら)の書幅・短冊・句集・俳書・句碑拓本・俳額・肖像・写真など。

◎図録「近世・近代 めまづの俳人たち」の刊行

企画展の図録を刊行しました。初めて紹介される史料が多く取られましたので、目で見える沼津の俳諧・俳句史です。

規格…B5版・56ページ(内カラ

12ページ)

頒価…一〇〇〇円



18世紀後半の沼津の代表的俳人 六花庵官鼠(東方寺所藏)

◎歴史講座の受講生募集

企画展に沿ったテーマで歴史講座を開催します。日程・講師・内容は表の通りです。申込みと問い合わせは当館まで電話でどうぞ。

- 7月20日(土) 芹澤伸二氏(御殿場西高等学校教諭) 「幕末期の文芸と報徳仕法 一富士山麓の『みくりや集』を例に一」
- 7月27日(土) 樋口雄彦(明治史料館学芸員) 「近世・近代 めまづの俳人たち」
- 8月3日(土) 岩崎鐵志氏(静岡県立大学短期大学部教授) 「雪中庵社中の人々」
- 8月10日(日) 関口昌男氏(日本大学三島高等学校教諭) 「近代の沼津の俳句と短歌をめぐって」

時間…午後2時から4時まで

場所…当館講座室

定員…一〇〇名

受講…無料

◎平和を考える親子戦争史跡めぐりの参加者募集

沼津市内に残る昭和の戦争に関係する史跡十数箇所をマイクログラスで見学します。

日時…8月15日(木)、午前9時から午後4時まで。雨天の場

合は翌日に延期。

対象…小中学生とその保護者

定員…一〇組二〇名

費用…無料、ただし弁当持参のこと。

申込み…電話で当館まで。

◎古文書解読入門講座の受講生を募集します

古文書に初めて接する方を対象にした入門講座です。申込みは当館まで電話でどうぞ。

日程…9月1日、8日、15日、22日、29日の毎日曜日、計5回。

時間…午後2時から4時まで

場所…当館講座室

講師…久保田富氏(沼津市史編集

専門委員)

費用…無料。古文書辞典をお持ちでない方には斡旋します。

沼津市明治史料館通信 第46号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂三七二一
電話 〇五五九一三三三三五
FAX 〇五五九一三五三〇一八